

◎山喜農園について

様々な種類のユリの試験栽培を行っており、ハウス内は色彩、一重、八重咲などたくさんの品種が丁度見ごろを迎えていました。並んで咲いている様子は圧巻で、それは素晴らしいものでした。森山氏の説明によると、近年は小型で華やかなものが主流で、さらには八重咲きのものが人気とのことでした。また、横や斜め上から見る事が多く、上向きに咲く花が選ばれて品種改良されてきたということです。新品種を作るには15-30年もかかるそうで、ユリ栽培のご苦労と奥深さも感じました。

◎八色の森公園について

八海山を望める圧巻の風景を取り込んだ、八色の森公園(15.3ha)については、建設の生い立ちや設計の考え方などを長澤裕子氏(環緑昭53)から資料により説明を受けました。現在は、6地区全体(58.02ha)を3社グループによる公園指定管理(県発注1契約1.24億円)により維持・管理されているとのことでした。

この公園の施設でもあるブドウ園(栽培)は、魚沼の豪雪地帯にあり、ぶどうは生垣仕立てにより栽培されていました。開業以来の豪雪地ならではの栽培法の工夫とその苦労話をお聞きました。一方でこの雪を活用した雪室での貯蔵・熟成についても研修させていただきました。どちらの公園施設も管理の行き届いており、素晴らしい公園を見学・視察できました。

◎母校のキャンパス管理作業について

二葉会による春・秋のキャンパス管理作業に、2人の当県支部会員もボランティアとして参加させていただいています。園芸学部の看板でもある素晴らしいキャンパスの管理作業について、年2回のこの種の活動では、手伝いできることにも限度があると思われます。管理・復元などの骨格にあたる管理作業については、キャンパスの生い立ちを理解し、ノウハウを持った卒業生(業者)もおられますので、指定管理などの方法により作業にあたっていただければと思います。

↓美術館から池を通して望む八海山



↓アグリコアの青木さん



↓ブドウの生垣仕立て栽培



↓ ワインレストラン「葡萄の花」にて ↓



(報告者:前新潟県支部長 齋藤健治(造昭50))